

市民ホール基本計画策定専門委員会 第7回会議 議事録

日 時：平成24年3月27日（火）15：30～17：45

場 所：小田原市役所 大会議室

出席者（敬称略）

[委員]

	氏 名	選出区分	所属等
委員長	桧森 隆一	学識経験者	嘉悦大学副学長／文化政策・アートマネジメント
副委員長	勝又 英明	学識経験者	東京都市大学教授／建築学
委員	市来邦比古	舞台技術	世田谷パブリックシアター技術部長 せたがや文化財団
委員	伊藤由貴子	音楽系	神奈川県立音楽堂館長／神奈川芸術文化財団

※桑谷委員、三ツ山委員は所用のため欠席

[事務局]

所 属	役 職	氏 名
文化部	部長	諸星 正美
文化部	副部長	奥津 晋太郎
文化部文化政策課	課長	座間 亮
文化部文化政策課	文化芸術担当課長	古矢 智子
文化部文化政策課	文化政策係長	高瀬 聖
文化部文化政策課	文化政策係長	杉本 将章
文化部文化政策課	市民ホール建設係主査	杉山 和人
文化部文化政策課	市民ホール建設係主任	府川 幸司

[事務局補]

所 属	氏 名
空間創造研究所	草加 叔也
空間創造研究所	橋爪 優子
空間創造研究所	瓜生 陽

[傍聴者]

9名

※16:30～17:15 加藤憲一市長出席

次第

1. 開会

2. 議題
 - (1) 市民ホール基本計画（案）について
 - (2) その他

3. 市長との懇談会

4. 閉会

次第 1. 開会

事務局

本日は大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。ただ今から市民ホール基本計画策定専門委員会第7回会議を開催致します。

本日は、桑谷委員、三ツ山委員が所用のため欠席いたします。

それでは、本日が最後の専門委員会になりますので、文化部長の諸星からご挨拶申し上げます。

諸星文化部長

本日は大変お忙しい中、委員の皆さま、傍聴の皆さまにお集まりいただきありがとうございます。

これまで6回の専門委員会でご議論いただき、3月20日には文化振興ビジョンと基本計画とを合わせたシンポジウムを開催致しました。また、2月21日から3月21日までパブリックコメントを募集し、111人の方からご意見を頂戴いたしました。

専門委員の皆さま、市民検討委員の皆さまには、これまで議論を重ねていただきましたが、改めましてパブリックコメント、先日のシンポジウムでいただいたご意見等を踏まえ、最終のご検討をお願いしたいと思います。

特にシンポジウムに出席し、市民検討委員の皆さまとそうではない方々との間に、ご認識の差があると強く感じました。市民ホールは一部の方々のみの問題ではなく、市民全体、まちづくり全体の問題として捉えることが必要だと思います。これを反省材料と捉え、行政として改めて市民周知を徹底し、広く市民の皆さまにご認識いただけるよう努めてまいります。

また、新年度の予算に関しましては、3月23日に市議会にて、管理運営計画、設計者選定、それに加え様々なソフト事業の充実、文化振興ビジョンの推進という点においても可決いたしましたのでご報告致します。

本日は、後ほど市長も参加させていただきますので、最後の委員会となりますが、充実したご議論をしていただきますようお願い申し上げます。

事務局

さて、本日の会議の予定でございますが、始めに議題の討論を行い、次に桧森委員長から市長へ、基本計画（案）について、ご報告いただいた後、市長を交えて専門委員の皆さんと「市民ホール建設に向けて」ディスカッションをしていただく予定です。

なお、誠に申し訳ございませんが、市長は他の公務の都合により、16時半から17時過ぎまでの予定となっておりますので、ご了承いただきたいと存じます。

それでは、会議の進行につきましては、「市民ホール基本計画検討委員会設置要綱」

第4条の規定により、委員長にお任せしたいと存じます。桧森委員長よろしくお願いたします。

次第2.議題(1) 市民ホール基本計画(案)について

桧森委員長

ここから、私が議事を進行させていただきます。本日が最後の市民ホール基本計画策定専門委員会となります。

2月22日から3月21日まで実施しておりました、パブリックコメントの意見等を踏まえ、最後に我々専門委員が今後へ向けた意見などを提言し、市民ホール基本計画の委員会案として、後ほど市長へ報告しようと考えております。

それでは、まず、パブリックコメントの実施結果について事務局から説明願います。

事務局

2月21日から3月21日の期間でパブリックコメントを実施いたしました。最終的に111名の方から404件のご意見を頂きました。ご意見につきましては基本計画の項目ごとに取りまとめ、基本計画以外の内容については「その他」として整理いたしました。いただいたご意見については、基本的にはあまり要約せずに記載しております。

集計は、お住まいは市内86名、市外8名。年齢は20代6名、30代6名、40代15名、50代15名、60代22名、70代19名、80代1名。性別は男性50名、女性47名でした。残りの方は不明です。

主なご意見の内容としては、今後の推進について、建設予定地について、バリアフリーについて、駐車場について、景観について、防災、事業や運営についてなどです。

今後は、項目ごとに意見に対する市の考え方を策定し、出来る限り早く公開したいと考えております。また、ご意見の一覧につきましては、本日の資料として市のHPで公開させていただきます。

また、6月、9月、12月、2月の時期に検討状況について、厚生文教常任委員会にて報告しています。2月3日は基本計画の素案について説明いたしました。

その後、2月29日から3月2日にかけて代表質問が、また、3月6日に予算委員会が行われ、3月23日に予算が議決されました。

3月23日には議員説明会を開催し、基本計画案について説明を行いました。

また、パブリックコメントと並行し、庁内にも意見照会を行い12件の意見をいただきました。主なご意見の内容は、防災や活性化についてでした。

桧森委員長

ただいま事務局から説明がありました。

パブリックコメントについては、多くの方からたくさんのご意見をいただきました。

これらのご意見や先日のシンポジウムの内容も踏まえ、ご意見、ご提言をお聞かせ下さい。

市来委員

項目として、たくさんのご意見を頂いたと思います。

その中で建設予定地について、駅前の建設を検討してはどうか、とのご意見がありました。

駅前に劇場を建設し、観客が小田原に降り立っても駅周辺しか行かずに終わってしまうというのは、まちにとってあまり良くないのではないかと思います。

また、あの一帯は土日はとても人が多いです。催しが土日に行われるとなると、駅前付近だけ人が集中し、他には人が居ないという状況になってしまうことを危惧します。

また、基本計画に示された設備を伴い、事業内容を行う施設と考えると、駅前では十分な広さを確保できないと思います。大ホール、小ホール、ギャラリー、スタジオ等の整備は広さ的に難しいです。建物の高層化を行うと建築費が跳ね上がりますし、防振についても懸念があります。

また、今駅前の土地が駐車場になっていますが、そこがなくなった場合に、駐車場をどこに移すのかという問題もあります。今回の計画でも駐車場を心配されている方が多いです。しかし、大きな駐車場を造るとその近辺が渋滞し、違法駐車が起こるのは確実です。三の丸地区で整備するというを前提として検討を行ってきましたし、今の予定地でいいホールを建設したいと思っています。

また、舞台技術系の部分については、基本的なものが十分に整備された、シンプルな設備という位置づけで基本計画がつくられています。舞台を上演するに当たっての設備、施設は必要最低限かつ十分だということを前提として、この計画を策定しています。

また、展示の部分では基本計画から三ツ山委員が加わり、天井高 4m、照明をきちんと取れるようにするなど、ご指摘をいただきながら計画の策定にあたりました。ギャラリーの広さに関しても、三ツ山委員と協議の上現在の 350 m²としました。

大規模展示の場合はギャラリーだけでなく、施設全体を活用することも十分考えられます。今までは貸ホールだったので美術系の催しが入る余地がありませんでしたが、今回は主催事業のひとつとして期間をとって美術系の催しを行うことができます。展示スペースに関しても、フラットなスペースや壁面をフル活用し、外光を抑え展示用の照明を仕込むことで、大規模な展示を行うことが可能です。最初からそう出来るように考え、計画の策定に当たっていましたが、きちんと意図が伝わっていなかったと感じました。

全館を使い総合的な催しを行うということは運営にも密接に関わってきます。現在想定している大規模なイベントは、年間スケジュールで考えて事業を行うことを前提とするので、来年度の管理運営計画の中でそのことを想定して検討を行うこと、そして議論のプロセスを皆さんに伝えていくということが大切だと思います。

伊藤委員

たくさんのご意見がありました。これから実際の観客、利用者になる方々のご意見だと考えると、大切です。しかし、現実にホールが開館しなければ判断ができかねるものと、その通りだと納得するご意見がありました。

基本計画に書かれる文言については色々と考えて書いたつもりでしたが、伝わらない部分があったことを認識しなくてはならないと思いました。

例えば、書いてある順番が大ホール、小ホール、支援機能となっていることで、音楽に偏っているという印象が出てきてしまったのかもしれませんが。

我々としては、美術の方々がギャラリーと支援機能の部屋を一体で利用したり、音楽と美術のコラボレーションを行ったり、サロンコンサートを行ったりと、様々な工夫が出来るホールとして提案しているつもりです。それをご理解頂くために周知が必要ですし、もっと美術系の方々にも、使い方によっていか様にも出来るようになっていくことを伝えなければと思いました。

名称に関しても、ホールの名前が芸術文化創造センターになるわけではなく、センターとしての機能を持たせることだと理解しています。小田原の既存施設を含め、全部の中心となる象徴的な場になれる、そういう意味での「センター」です。今は基本計画なので仮称として芸術文化創造センターと言っていますが、そう言うことで市民の皆さんが固く感じたり、自分とは離れた所で話が進んでいると思ってしまうこともあるかと思っています。基本計画について理解していただく活動が必要だと思います。

今後、周知を図っていくのはソフトの問題になるわけで、市民の皆さんの実情を伺いながら検討を推進していけば、ご理解いただけるのではないかと思います。

また、対立した意見がたくさんありますが、対立側のご意見の方々やホールに興味のない人にもご理解をいただくには時間もかかります。なかなか難しく、辛い部分も伴うと思いますが、どこにも建てないというのは文化振興のスタートにもなりません。「ホールの開館が待ちきれない」というご意見が力になると期待しています。

勝又副委員長

パブリックコメントについて、たくさん意見をいただきました。中には「いい意見なので詳しく聞きたい」というものもあり、パブリックコメントの中で全て表現されているわけではないと思います。

基本計画に足りなかったと思うのは、我々が自明だと思い基本計画の中に書いていなかった部分が、実はそうでは無かったということです。まちづくりや都市計画の視点から駅や城との関係、全市的な施設の配置、沿線の施設との関係などについても、もう少し整理してもよかったかもしれないと思います。

スケジュールについてのご意見もありました。スケジュールについては、長いスパン

で考えていただきたいと思います。文化振興については、この施設で全てが解決できるわけではありません。このパブリックコメントの中には、今回は難しいですが将来的に実現可能なものもあるかもしれません。長いスパンで見てほしいと思います。とはいえ、パブリックコメントは短期的に解決を図ってしまいたいという傾向になりがちなのは仕方ないと思います。

客席規模についてですが、客席規模に公式はありません。公式的なものとしては興行的視点や視距離など個々にはある程度ありますが、全てを組み合わせた時に理想的なものができる訳ではありません。あまり規模の議論がされていないというご意見がありました。また、仕方ない部分もあることをご理解いただければと思います。客席規模については席数が多すぎるというご意見と小さすぎるというご意見と両方ございましたが、私としては使い勝手がよく、適当な席数になったのではないかと思います。また、施設計画の部分で、お城との連携といった部分はもっと考えてもいいと思いました。また、私の専門ではありませんが、観光拠点としての活用も今後検討した方がいいかと思いました。

桧森委員長

いくつか説明させていただきます。

建設地についてですが、この委員会では三の丸地区でのホール整備を前提としており、建設地の検討は議題に入っていませんでした。しかし、市民検討委員会での議論も含めホールの内容が固まってきてみると、このプロセスの中で検討されてきたこのホールは、駅前には建たないということは確実です。

理由の一つ目は、ホールの各施設が有機的に連携し、様々な事業に対応できるようになっているということです。ギャラリーが 350 m²では足りないとなった時に、大スタジオを展示スペースとして利用することで大規模な催しにも対応できます。そのためにはギャラリーと大スタジオが同じフロアの中で行き来できるようになっていなければなりません。

それ以外にもギャラリーと小スタジオの両方を使った企画など、色々なことが考えられます。そういった施設を有機的に使いこなしていこうとすると、高層化すると行き来ができないので使いにくくなります。連携した使い方をしたいのであれば、建物の高層化は難しいです。

二つ目に、使い勝手のいいホールにする、ということが基本構想時から言われてきました。具体的には搬出入がしやすいことなどです。駅前の敷地に建設すると、高層化しなくてはならないのでエレベータ搬入になる可能性があり、使いにくくなります。裏動線を楽器や大道具などが通ると考えれば、駅前で高層化のホールは使い勝手がよくありません。

三つ目はお金の問題です。やはり、できるだけ建設費を抑える必要があるということ

です。駅前で整備するとなると、防振構造にしなければならず、建設費が大幅にかかります。

また、駐車場についてですが、現代は車社会であり、各地には大きな駐車場を持っているホールがたくさんあります。そういったホールの欠点は何かということ、鑑賞後に余韻に浸る場所が無いということです。ヨーロッパでは、鑑賞後に皆で食事などをしながら語らうということを行います。そこまでを含め、芸術文化を享受するということになります。車に乗ることで非日常から日常へと即座に帰ってしまうのでは、鑑賞の仕方としては味気ないです。市民の皆さまには、小田原は歩けば色々ある、とても恵まれたロケーションだということを考えていただければと思います。

最後に規模の問題ですが、大ホールは1,200席ですが、客席を複数階層にする計画となっており、1階席のみを開放することで600席～700席でも空席感が少ないという工夫をするホールになっています。

また、人気アーティストは3,000席か4,000席無いと興行を行いません。そういった興行ができるホールというのは限られています。演歌、ジャズ、クラシックなどは、1,200席あればマネジメントとしてある程度採算が取れる席数です。

パブリックコメントの8割から8割5分程度は市民検討委員会で検討され盛り込まれたものと言えます。ただし、勝又委員が言われたように、検討が足りなかった部分もあるので、今後検討する必要があると思います。

市来委員

バリアフリーについて貴重な意見をいただいています。専門委員会、市民検討委員会でも議論が行われてきましたが、このホールにおいてバリアフリーは最大限の努力目標だと判断しています。今後も議論を重ね、実際に設計に反映させて実現させていくことを重要な課題として考えています。

桧森委員長

バリアフリーについて、障がいの種類によって必要なものが違うので、今後細かい検討が必要です。また基本的にはユニバーサルデザインになっていれば、障がい者にも健常者にも優しい施設となります。

その他に何かありますか。それでは、資料1市民ホール基本計画（案）について、委員会案として市長へ報告するものとしますが、今日いただきましたご意見を行政でとりまとめ、委員会からの提言として、基本計画に反映することを付け加えます。専門委員のみなさんその方向でよろしいでしょうか。

委員

異議無し。

次第 2. 議題 (2) その他

桧森委員長

それではそのように取り扱うこととします。

そのほかに、(2)その他 といたしまして、何かございますか。ないようであれば、今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

事務局

スケジュールについてご説明いたします。

24 年度に管理運営計画と設計者選定、25 年度に基本設計、26 年度実施設計、27 年 28 年に建設工事を行う予定です。

24 年度の管理運営計画は、専門委員会と市民検討委員会を発足し、今年度と同じように検討を行っていきます。5 月始めに広報にて市民参加の募集を致します。6 月末または 7 月初めからスタートし、12 月までにパブリックコメントを行い、年度内には策定いたします。

基本計画にて施設規模が決まって参りましたので、施設整備費が概算で計算されています。来年度は事業や専門家、職員の配置などを含め、ランニングコストも計算できるようにしていきたいと考えています。また、25 年度で具体的な運営方法を検討し、26 年 27 年には運営組織をつくり、具体的な作業を行うという形にしたいと考えています。

設計者選定ですが、前半では選定委員会の前段階として、要綱や基準の案を作成し、その後選定委員会を発足させ要綱や選定基準等についてご議論いただこうと考えています。11 月 12 月に公募を行い、1 月から 3 月に選定作業を行います。以上です。

桧森委員長

それでは、本日の議題につきましては終了いたしましたので、ここで一旦休憩とさせていただきます。

－休憩－

議題 3. 市長との懇談会

事務局

それでは会議を再開いたします。まず、桧森委員長から市長へ、市民ホール基本計画の報告となります。桧森委員長宜しく願いいたします。

桧森委員長

我々専門委員は、市民の方々の想いを実現させるにはどうしたらいいかに心を砕き、

基本計画の策定に当たって参りました。この基本計画には市民の皆さんの想いがこもっているということを申し添えてご報告させていただきます。(市民ホール基本計画(案)を市長へ手渡す)

市長

この度は、専門委員、市民検討委員の皆さんには長時間に渡り、様々な見地からご議論いただき、本当にありがとうございました。

前計画からの軌道修正を経て、小田原市、あるいは地方都市の中で文化を育てるということはどういう意味を持つのか、どういう可能性を持つのか、ということを含め、皆さんの議論によって明らかになりましたし、私たちが漠然と考えていたことの構造や論点を明らかにしていただいたと思います。

また、100名、400件以上ものパブリックコメントが寄せられたことも、ここまで濃密な内容を作っていただいた結果だと思えます。

来年度以降はより具体的な計画の検討へと進んで参ります。引き続きご指導いただきながら、歩み方を間違えることなく進めていきたいと思っています。

東日本大震災以降、本格的な市民参画によって新しい市民ホールを建設するという点において、本市は早い段階で進めさせていただくことになると思います。

我々がこれだけの時間をかけ、市民の方々、専門家の方々にご議論いただき、基本計画が策定されることを誇りに思います。今後の計画についてもご尽力をお願いいたしまして感謝の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

事務局

ありがとうございました。それでは、ここから、市長も交えまして、市民ホール基本計画について、市民検討委員と専門委員による策定方法やそれに至るまでのプロセスなどを振り返りまして、委員の皆さまからご意見・ご感想をいただきたいと思えます。また、今年度1年間市の事務局の一員としてご尽力いただきました、空間創造研究所の草加さんからもご意見をいただきたく存じます。

勝又副委員長

私自身、他都市にていくつかの基本計画に携わってきましたが、市民の声をほとんど聞かずに作られ、開館後が心配になるような例もあります。小田原市が多くの市民の皆さんから意見を聞いて策定に当たったことは非常に良かったと思えます。

どの基本計画に携わっていても思いますが、皆さんの意見を100%叶えるのは不可能です。しかし、全てにおいて平均的に80%の能力を有するホールの実現を目指したいと思います。

ただ、危惧されるのは、あまり平均的なものを造ってしまうと、建築的につまらなく

なる可能性もあるということです。しかし、今後検討される運営組織という意味で言えば、建物に関係なく検討できる部分がたくさんあります。ユニークな運営を行う上で、建築的に解決しなければならない部分は、多少はあります。例えば、市民の方々が活動する部屋を設けるなどです。しかし、活動室に広い空間が必要なわけではありませんし、やり方は色々あると思います。

やはり、今回の意見の中で短期的な視点の話が多かったと思います。今後は我々専門委員も市民の皆さんも、中長期的な視点で考えていくほうがいいと思います。具体的には、今回の市民ホールに盛り込めなかった施設は、将来実現させたり既存施設を活用したりなど、中長期的な考え方も示していく必要があるかと思います。

また、建設費や運営費などのコストの問題も、今後は整理したほうがいいと思います。

また、パブリックコメントの中に「ボランティアを無料で使わない」という意見がありました。その通りだと思います。責任を持って仕事を行うために必要な経費があり、ユニークな運営をしていくためにはそれだけ人件費がかかるということです。そのコストは中長期的な意味で回収できると考えていただきたいと思います。

最後に、今回の計画の進め方で感心したのは、資料も議事録も整理され市のHPにて公開されているということです。前計画の資料を含め整理されているので、同じ議論を繰り返さないよう気をつけた方がいいと思います。

伊藤委員

私自身、このような委員会は初めてだったので、こういうやり方があったのかと思いました。

音楽堂が建設された58年前は、完全にトップダウンでホールが建設されています。とはいえ、音楽に特化するという条項が、条例には入りませんでしたが指示書のようなもの書かれており、音楽の専門家の意見を聞き造られたので、今に至るまで音楽ホールとして機能できているという部分があります。ホールづくりの基本計画に市民の意見が入っているということが、今後50年100年続いていくことが大事だと思っています。

今回のパブリックコメントの膨大なご意見もそうですし、市民検討委員会で出されたご意見もそうですが、意見を仰った方は、これから新しいホールのお客様にも利用者にも表現者にもなりうる方であり、公共ホールというのはそういうものだと思います。音楽堂もお客様は利用者であり鑑賞者であり、上手く循環しています。そうなる则ち皆さんの中や地域に定着し、自分たちのホールとして愛着も生まれてくると思います。市民の皆さんの活動と芸術分野の専門家の提案とが、上手く繋がっていくことが重要だと思いますので、そのためにも、今回最初に市民の方々が意見をおっしゃるといのはいいスタートになったのではと思います。

それでもパブリックコメントを読むと、基本計画に書いてあるけれども読み切れていないと思える部分がありました。書き方に問題があったのかもしないですし、もう少

しわかりやすくし、基本計画を理解していただく活動を行っていく必要があります。そして、その活動そのものが今後、ホールにとってのソフトになると思います。

今回の基本計画は本当に土台であり、これから多くの過程があるとパブリックコメントを読んで実感した次第です。ですが小田原らしさというのがこの中から生まれてきますし、文化の面で小田原らしさを創るために計画を推進していますので、是非、時間をかけて形にしていけたらいいと思います。

市来委員

来年度は基本のテーマである、魅力ある使いやすいホールであるということ、これを実現するためにこの委員会の委員ではない専門家の意見を広く聴き、設計に反映させていくということを実現できないかと思っています。

桧森委員長

ひとつ目は、基本構想で小田原に関わるようになってからの大きな変化は、市民の方が企画する文化活動が生まれたり、今まで見えなかった活動が見えるようになってきたということです。

ホールについての意見聴取というと、行政や既存文化団体の利用者の意見を聞くというケースが多いですが、実際の大きな核は観に来る人たちです。観に来る方が何を観たいのかといったことは非常に重要です。更に言えば、自分たちが観たいもの、観せたいものを自分たちで企画してやっていこうという動きもあります。そういうことがなければホールはなかなか活性化しません。その芽が見えてきたのではないのでしょうか。

現在、市民会館自主事業の予算がほとんど無い状態でしたが、それが変わりつつあります。市民の皆さまの意欲も大きいですし、問題意識をもって取り組んできた事務局の皆さまの努力も大きいと思います。今後、動きがますます加速し、ホール開館の頃には文化活動が活性化されている状態になっているといいと思います。

ふたつ目に、実際に建てていくことになることになると、市民の方々は景観に大きな関心を持っていると思います。実際に設計者を選定し、どうやって解決していくのかということについては、設計者だけではなく皆で知恵を出していく必要があると思います。

三つ目に、ホールの運営に、何らかの形では市民の皆さんが参加していくことになると思います。その参加の方法を今から考えると共に、設計についても、専門家の意見を聞くことも必要ですが、市民の方々の意見を聞くことが必要です。運営、設計での市民参加をどう設定するかが次の課題だと思います。

最後に、20万市民が全員ホールに来たり利用したりするわけではありませんが、20万市民が、「自分には行かないが、ホールがあることは良いことだ」と誇れるホールが出来ると思います。

空間創造研究所 草加氏

事務局補佐として、主に市民検討委員会の進行役を務めておりました。

多くの市民の方が何度も検討委員会へと足を運んで下さったことにお礼を申し上げます。ありがとうございました。

市民検討委員会の議論は、毎回テーマごとに何班かに分かれ、意見をまとめて発表するという検討を繰り返して参りました。当初は個人の意見を主張される方もいらっしゃいましたが、時間の経過と共に市民意見としてまとまるようになってきたと思います。それでも全ての意見が一致するわけではないので、無理にまとめることなく専門委員会に市民意見として提案いたしました。専門委員の皆さんには理解をいただき、色んな場面を想定し計画に反映していただけたと考えております。

意見は基本計画をまとめるためにだけに出された意見ではありません。出た意見を蓄え、今後、管理運営、設計者選定、設計、施行というプロセスの中で、ひとつずつ意見を反映させていけるといいと思っております。これは、検討委員会で出された意見だけでなくパブリックコメントも同様です。

私たちが考えている施設計画は開館がゴールではありません。むしろ開館が小田原市の文化施策のスタートになるのだと思います。今はスタートラインに向けて歩いている所です。今後も、より多くの方々に参画いただき文化の輪を広げ、特に皆さんの活動がどのようにホールとマッチングしていくのか、想いをどう活かせるかということが、管理運営計画で議論されると思います。

市長

市としても市民としても、文化に対するアプローチの仕方が変わってきています。それに伴い、市として文化施策の枠組みや予算も変えていかなければなりません。その点について認識を深めながらも、覚悟を決めなければなりません。これが大きなテーマのひとつだと思います。

ただし、金額の多寡よりも中身を創っていく人たち、とりわけこれまでご心配頂き検討に加わって下さった市民の皆さまに、中身をつくるほうの作業に主役となり入っていただき、いかにソフトをつくっていくかということが重要だと思います。運営計画と並行して中身づくりにも尽力せねばなりません。

運営方法については、ここの工夫のしどころが勝負だと思います。今までに興味のある方々には参加をしてきて頂いたと思います。そうでない方々がどのように関わってこられるのか、文化に携わってはいないけれども地域のことを色々とやってきた方々が関われる仕組みができればいいと思います。

また、三の丸地区での整備について、景観を心配していらっしゃる方がいます。その方々にもきちんと説明し、お互いに解決策を見いだしていくというコミュニケーションを図っていくことも重要な課題です。

また、できるだけ建設に係る負担を少なくし、かけた金額に見合うものを建てるということも非常に重要です。

いずれにしても、開館まで約5年の作業があります。時間がかかりますが、建設過程を楽しみ、そこから色んなソフトが生まれる状況をつくっていきたいと思います。

傍聴の方々でご意見がございましたら伺いたいのですがいかがでしょうか。

市民1

専門家の方がいらしたからこそ、市民の意見が反映されたのだと思います。

駅前にもっと広い土地があるならばそこに建設してもいいと思いますが、三の丸地区を文化の発信エリアとして、「あそこに行けば楽しいものがある」と思ってもらえる場所になればいいと思います。

小田原にとって、今後100年誇れるホールが建設されればいいと思います。

市民2

市民検討委員会に参加し、他にも小田原城植栽検討委員や環境再生などに携わっています。市民として全体を見る目をつけさせて頂いたと思います。まだまだ対立がありますし、反対意見もありますが、お互い距離がある部分があるので、今後話し合って落ち着くといいと思います。

小田原らしさとして、自然というテーマで時代の趨勢を、自然と共生という方向で進んでいけば解決するのではないかと思います。

市民3

全国に誇れる計画が策定されたと思っています。

パブリックコメントを読んで感じましたが、市民会館と芸術文化創造センターの違いというのを説明されていますが理解されている市民が少ないと思います。何故かというと、長い時間今の市民会館でやってきたことが文化だと思っており、芸術文化創造センターを体験したことのない人に説明しても理解は難しいと思います。単純な建替えと考えている方が多いのだと思います。解決を図るには、運営を考えていくなかで、このホールがまちづくりや子どもたちなどにどのような影響があるのか、丁寧にやっていくしかないと思っています。

また、まだまだ課題はありますが、出来る限り小田原の木を使ってホールを建てて欲しいと思っています。これこそが小田原らしさだと思っています。

市民4

市民検討委員会に参加していました。

先日機会があり、なりわい交流館に行きました。そこの看板の裏側に、関わった人た

ちの名前が書いてあります。それを見て、その時のことが思い返されました。

経済状況もバブルの時期と比べると非常に悪くなっていますが、そういう中で文化の意味を考え直すきっかけが出来てありがたかったと思います。文化によって、市民の手で奇跡を起こすことができたらいいと思います。なりわい交流館の看板裏側をみてそのようなことを思いました。ありがとうございました。

事務局

市長につきましては、公務の都合がございますので、誠に申し訳ありませんが、ここで退席させていただきます。

市長

開館まで先は長いですが、これまでの部分について、改めて専門委員、市民検討委員の皆さま、傍聴された市民の皆さま方にお礼を申し上げます。ありがとうございました。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

事務局

それでは、委員の皆さまから、来年度に向けてひとことずつお願い致します。

勝又副委員長

今回の小田原の委員会は、設計業界から非常に注目を浴びていますので、丁寧にやっ
ていかねばならないと思います。例えば、自分の家を建てようとなった時に誰に頼むか
と考えると、私であれば自分のテイストにあった人に頼みます。この人に頼めばいいと
いう人を選べるような方向を今後検討していかなければならないと思います。

伊藤委員

5年後は、まだ先のように見えても、いざコンサートを企画するとなるとあっという
間にやってきます。オープニング事業を行うのならば、3年前から動かなければ難しい
と思います。

また、来年度は設計者の選定で盛り上がる事になると思います。良い方を選べる仕様
書をきっちりと作ることが大事だと思いました。

市来委員

来年度からは、長く市民ホールの活動に参画していらっしゃる方も新しく参画する方
も、ものづくりのワークショップなど、色んなことを一緒にやり、遊んでいけたらいい
と思います。ワークショップは経験値はあまり関係なく、皆で同一レベルからはじまっ
て遊ぶということが大事です。あらゆる芸術創造はそこから始まり、そこに芸術文化創

造センターの芽があるので、是非やっていけたらと思います。

設計者選定に関しては一番大変だと思います。ここに書いてある事の裏を、我々が議論せねばならないと思います。

設計者をしぼらないため、具体の数字を極力減らしましたが、根拠がないというわけではありません。あらゆる舞台芸術の局面で、どういうことが必要とされているかについては、もっと色んな例を上げ我々の知識のバックボーンにしておかねばならないと思います。

世田谷パブリックシアターは築15年ですが、新築同様に見えます。15年くらいは今建ったかのような建物として、そういう気持ちが伝わるような建物としてそこにあることが重要なことだと思います。

桧森委員長

もし、5年後にオープニング事業でベルリンフィルを招聘するとなれば、今から企画を立てねばなりません。また、市民オペラをオープニング事業で上演したホールもありますが、準備に3年ほどかかっています。そういう意味では5年間はあっという間です。

先日のシンポジウムに、ある市の職員がきました。その市では、名建築であるホールを一度取り壊してから建て替える予定だったのですが、紆余曲折あり、今のホールは残して新しいホールを建てることになりました。その職員の話によると、市民や専門家の話をあまり聞かずに計画を進めていたということでした。市民検討委員会と専門委員会で何度も議論を行うというのは非常に大変でしたが、こういう進め方をしてきて良かったと思っています。

来年は遊びの要素を取り入れ、市民の皆さんと楽しくつくっていきたいと思います。

事務局

スケジュールについて補足致します。基本設計の段階も時間を長くとっています。やり方は今後考えていきますが、来年度は管理運営計画でご議論いただき、具体的になってきた基本設計の段階で市民の皆さまに細かい部分に関してご議論いただきたいと思っています。

それでは、最後に桧森委員長からご挨拶をお願い致します。

議題4. 閉会

桧森委員長

皆さま、1年間ありがとうございました。

予定調和的にはやらず真剣な議論を行いました。その結果、時間が長引くこともあり皆さまにはご迷惑をおかけしましたが、本音の議論を尽くす過程で色んなものが形づくられるという考えから、皆さまにご協力いただきました。

しかし、やはり議論を尽くすことが大事ですし、話の中で触発される部分もあり、こういうやり方で良かったと思っています。

大変、充実した議論を重ねた結果、今後の基礎となる基本計画が策定されるのではないかと自負しております。

是非、基本計画を後戻りさせることなく前に進んでいきたいと思います。市民、職員の皆さまもここからのスタートと考えて頂ければと思います。

以上で閉めの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました

事務局

それでは、今年度の議事につきましては、すべて終了いたしました。これにて会議を閉じさせていただきます。委員の皆さま、傍聴の皆さま、お疲れ様でした。